

介護世帯の家計と生活意識に関する調査の概要

公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構

主任研究員 長野誠治

レポート全文（ http://www.nensoken.or.jp/wp-content/uploads/rr_30_09.pdf ）
は無料でダウンロードできます。

1. 調査の目的

本調査の目的は、①現在、介護をしている、②過去に介護の経験がある、③介護の経験なしの3グループ男女別の6区分して、家計や生活意識の違いを明らかにすることである。

2. 調査対象

35～74歳の厚生年金被保険者及び厚生年金受給者（いずれも公務員を含む）とそれらの配偶者、合計5,000人。

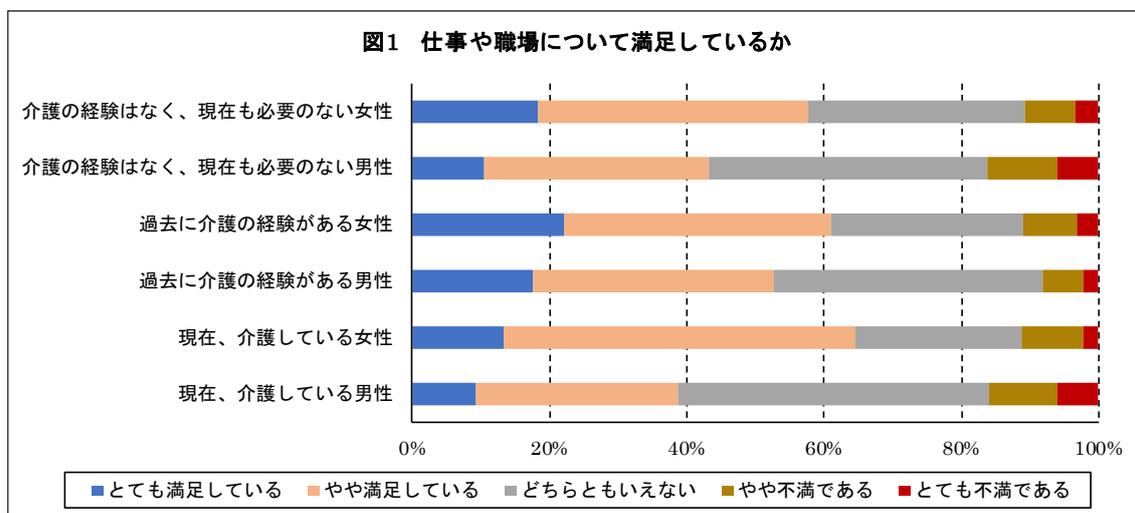
3. 調査実施時期

2016年12月

4. 調査結果の概要

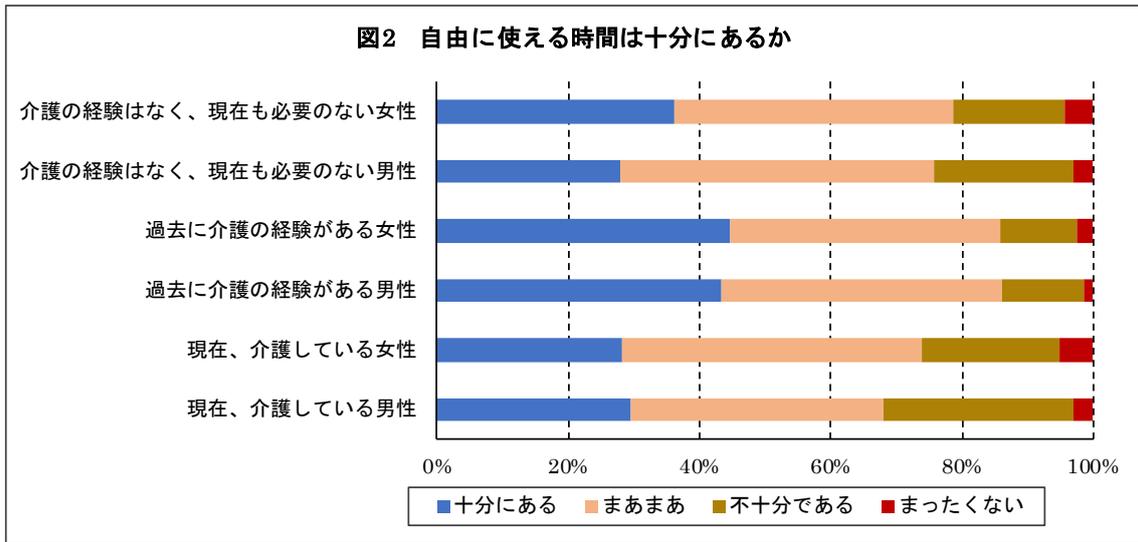
○仕事や職場について

「現在、介護している」男女ともにその他の男女に比べて満足度は低い。男性は休暇の取りやすさや家庭と仕事の両立の点で、女性は賃金面で不満が強い。介護と仕事の両立が難しいことを示している。



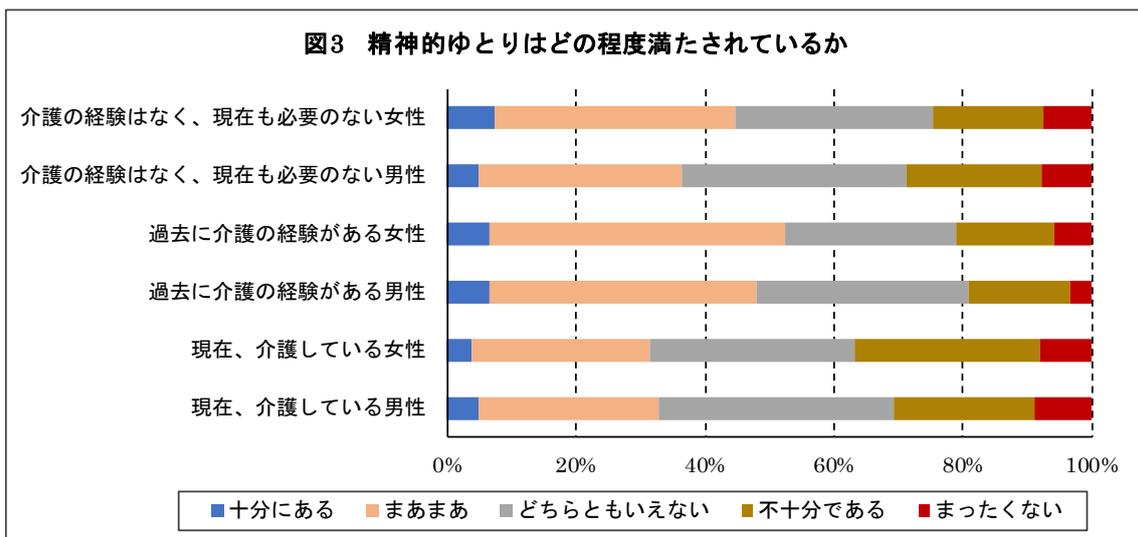
○自由時間について

「現在、介護している」男女ともに「不十分である」「まったくない」の回答がそれ以外の男女に比べて多い。逆に「過去に介護の経験がある」男女は「十分にある」「まあまあ」の回答が多く、介護に携わっていた時の自由時間の不足感から解放されている実情がうかがえる。



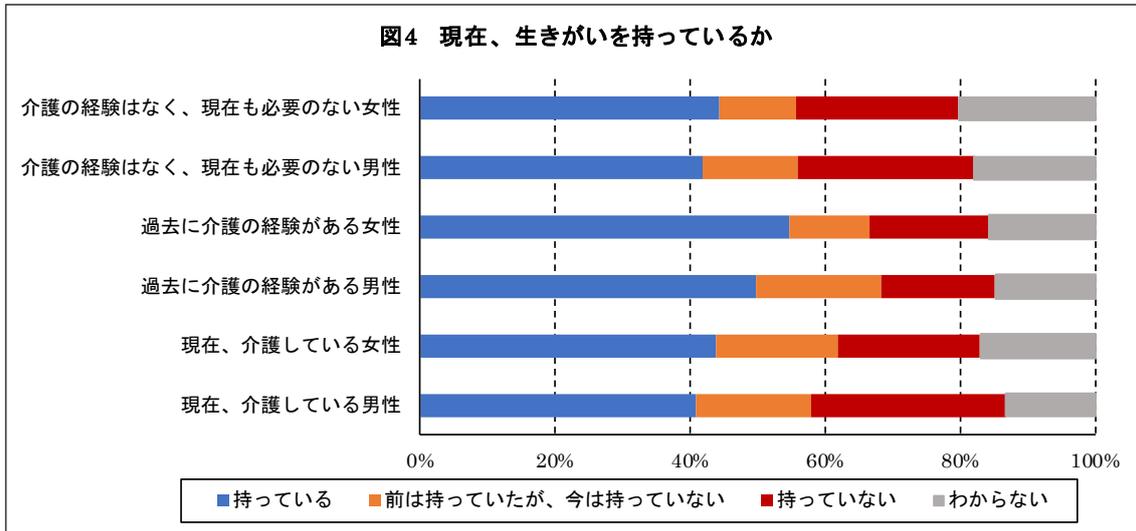
○精神的ゆとりについて

「現在、介護している」男女が他の2グループの男女に比べて満足度は低い。



○生きがいについて

「現在、介護している」男女が他のグループの男女に比べて「持っている」の回答が少なく、特に女性は「前は持っていたが、今は持っていない」の回答が多く、家族の介護に携わることで従来持っていた生きがいを失った可能性もある。



○暮らし向きについて

「現在、介護している」男女が「苦しい」と感じている割合が多い。

